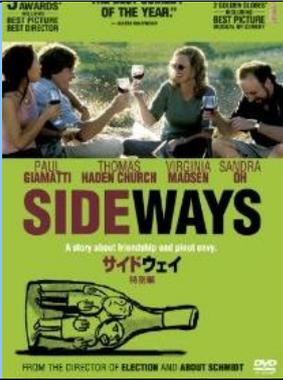


『サイドウェイ』		原題 <i>Sideways</i>	2004 年	執筆：清水 純子
制作国	アメリカ、ハンガリー			
スタッフ&キャスト (監督、脚本家、俳優、その他)	スタッフ： 監督・脚本: アレクサンダー・ペイン/ 脚本: ジム・テイラー/ 製作: マイケル・ロンドン /音楽: ロルフ・ケント/ キャスト： マイルス: ポール・ジアマッティ/ ジャック: トーマス・ヘイデン・チャーチ/ マヤ: ヴァージニア・マドセン/ ステファニー: サンドラ・オー/			
画像				
カラー・モノクロ	カラー			
時間	130 分			
ストーリー	カリフォルニア在住のマイルスは、離婚の痛手から立ち上がれず、自作の小説の出版を夢見る中学校教師である。親友で落ち目の俳優ジャックの結婚を控えて、その前の1週間で二人でワイン・ツアーに費やす。女たらしのジャックは、行く先々で女性と問題を起こすが窮地をマイルスに救われ、無事結婚にゴールインする。女性よりもワインに目のないマイルスもワイン通のマヤと意気投合するが、ジャックの悪行のせいでうまくいかなくなる。しかし、マイルスの小説のすばらしさがマヤの心を開き、マイルスはいそいそとマヤの元へと急ぐ。			
時代設定	現代			
場所	カリフォルニア州			
社会背景	アメリカのワイン生産は18世紀後半、スペインの宣教師がカリフォルニアでミサ用ワインを作ったのが始まり、19世紀中庸のゴールドラッシュと共にブドウ栽培が拡大する、1920年から1933年まで禁酒法によってワイン作りは途絶えるが、生産復活後1970年代以降品質の高いワインが生産され、今日では世界的人気を誇るようになった。			
文化的背景	生産高世界第四位のアメリカのワイン文化の隆盛、産地カリフォルニアのワイナリーへの造詣の深さ。			
使用言語	英語（ワインの専門用語が多い、アメリカ英語特有の会話体）			
テーマ	カリフォルニア・ワインへの造詣、中年の男女の恋愛、作家になる夢。			
みどころ	ワインに関する豊富な知識と嗜好の披露。失敗を重ね、悩みながらも夢と希望を捨てずに恋愛や仕事にチャレンジする二人の平凡な中年男性の姿。			

印象深いせりふ	MILES: These guys make top-notch Pinot and Chardonnay. One of the best producers in Santa Barbara county. . . . I like all varietals. I just don't generally like the way they manipulate Chardonnay in California -- too much oak and secondary malolactic fermentation. MAYA'S VOICE: Anyway, like I said, I really loved your novel. Don't give up, Miles. Keep writing. You're really good. Hope you're well. Bye.
授業教材用 メリット	過激な暴力描写がない ワインに関する専門用語と知識が満載 カリフォルニア郊外のワイン園と豊かな景色が楽しめる。
授業教材用 デメリット	飲酒運転はアメリカでは規制が日本よりは緩やかな傾向がある点に注意。中年男女の物語なので、若い人々の興味と理解が各人異なる。
映像入手元	20世紀フォックス・ホーム・エンターテイメント・ジャパン (DVD/Blu-ray)
原作の有無	レックス・ピケット
支持反応	metacritic 評価 (批評家 94、観客 6.5) Rotten Tomatoes 評価 (批評家 96、観客 78)
キーワード	ワイン、カリフォルニア、中年、恋愛、作家。

Copyright © Junko Shimizu All Rights Reserved.

★本サイトに掲載される情報の著作権は、清水純子に帰属します。

許可なく複製、改変、アップロード、掲示、送信、頒布、販売、出版等を禁止します。